

インフルエンザ ワクチンについて

1. インフルエンザとは

インフルエンザは、インフルエンザウイルスによる全身性の感染症です。抗原変異を起こしやすく免疫が利きにくいので毎年流行します。症状が強く重症になることもあるカゼの親玉です。時に、肺炎・気管支炎、熱性けいれん、中耳炎など合併症を起こします。さらに小児はインフルエンザ脳症で重篤になることがあります。

多い年には数百名の方が亡くなっています。



2. インフルエンザワクチンとは

インフルエンザワクチンは、インフルエンザの予防注射です。日本では、前年の流行から今年の流行するウイルス株を予測してワクチンが製造されます。今年も、2009年に大流行した新型インフルエンザ・A/H1N1と、A/H3N2、B型を加えた3価混合ワクチンが使用されます。小豆沢病院では、このワクチンを使用します。

ワクチンの接種で、罹患する人を減らしたり、症状の軽減や、合併症を減らす効果があります。

- * 65歳以上の方
- * 肺疾患・心臓疾患・糖尿病を持っている方(小児、成人を問わず)
- * 養護ホームなど長期療養施設の入居者
- * 長期のアスピリン治療を受けている方(0.5才～18才)

に該当する方は、死亡する割合が通常より30～100倍くらいになるという調査結果があり、ワクチンの接種が推奨されています。しかし、ワクチンの接種には保険がきかないため、自費診療となり、本人の希望により接種いたします。

ワクチンは1回接種が原則です。ただし、12歳以下の小児の患者さまは2回接種となり、2回目の接種は3～4週間後に実施することになります。効力は4～5ヶ月程度持続します。

3. インフルエンザワクチンの副反応(副作用)

一時的な発熱や接種した部位・腕の腫れは、たまにありますが、それほど心配する必要はありません。しかし、300万人に1人の割合で、重篤な副反応を起こすことが知られています。

これまでの報告では、「呼吸麻痺」「四肢麻痺」「聴力障害」などの神経系の副反応があり、ほとんどは完治しますが、中には投与後に死亡した例も報告されています。

4. インフルエンザワクチンの効果について

インフルエンザワクチンの型が流行しているインフルエンザと合わない場合には、効果がありません。

小豆沢病院

2011年10月